

活気あふれる伝統市場

生活味を感じて おまけに情もたっぷり

間もなく旧正月。伝統市場が頭をよぎる時期である。普段も負担のない身近な買い物場所として、隣近所の情報が聞ける場所として庶民に愛されているが、旧正月などの祭日が近づくとなおさらである。始興市にはサムミ市場とトイル市場がある。ほとんどの市場がそうであるように、これらの市場も大手スーパーに押されて苦戦したが、伝統市場ならではの長所によって再び客足が戻ってきた。常設市場特有の活気あふれるサムミ市場を中心に、歴史が長く始興で唯一5日ごとに市が立つトイル市場の変化をお伝えする。

年末のある週末の正午、新川洞のサムミ市場は大勢の人でにぎわう。買い物した荷物を両手いっぱいを持っている人もいれば、ただキョロキョロと見物しながら間食する人もよく見かける。学生や若い世代も多い。

うずたかく積まれた色とりどりの果物、ホカホカ湯気の立つ餅やおでん、せっせと焼かれているチヂミ、生鶏と鶏唐揚げの甘辛ソース和え、新鮮な野菜と魚、様々な惣菜や小豆粥、豚足など、食べ物の店が圧倒的に多い。かといってそれが全てではない。服や化粧品、靴の店をはじめ、大きな祝祭日に欠かさず訪れる昔からの製粉・製餅所もある。2004年に屋根工事が行われたアーケードには、庶民の心を癒す屋台が並んでおり、ぬくもりが感じられる。

20年以上八百屋を営んだノウハウを生かし、すぐ横に飲食店を構えて成功したケースもある。安く新鮮な野菜を使って客の舌を魅了し、メニューの値段も安いため「良心的な店」にも選ばれた。その場でパンを作って売るパン屋もある。パンを作る様子が外からでも見えて信頼できるだけでなく、そぼろパン、あんパン、クリームパンなどが3つ1000ウォンで買えるため、いつも客が多い。



新川洞で生まれ育ち、サムミ市場で20年以上干物や祭祀用品の店を運営してきたパク・チョンヒョン(64)、ユン・ソンスン(54)さん夫婦は、不景気のため以前よりは客が減ったという。しかし、旧正月の書き入れ時は期待できるそう。始興はまだ農漁村がたくさん残っており、旧正月などの祭日には帰省先となるためである。

商人会長のパク・チュンギ(60)さんは、サムミ市場を訪れる一日の利用客が週末は約1万人、平日は7千人ほどになるという。アルバイトを雇って2012年10月に集計した当時は、今より一日平均4~5千人多かった。商人と地域社会の努力によって他地域の伝統市場よりはましなほうである。

始興市大手スーパーの定休日である第二・第四日曜日に、サムミ市場の商人は「大市」イベントを開いて商品の値段を普段より安くする。昨年の5月から約2ヶ月間は51人の商人が商人大学に通い、親切的な応対や商品の陳列方法などを学んだ。

初冬には多文化家族50組を招いてキムチ作りイベントを開き、2013年の一年間、50回の文化イベントを催した。5月から11月まで毎週末、サムミ市場の入口は農楽隊やサックス同好会など、地域サークルの公演でにぎわった。



サムミ市場の店舗数は142店。全体店舗のうち10年以上営んでいる店は3分の2以上で、20年以上の店も多数あるという。新川宅地地区の開発が行われた1987年にサムミ市場ができたため、一度落ち着けばほとんどの店が長い間市場を出ていかなかったことになる。

市場近隣の新川覆蓋川駐車場に車を駐車すれば、購入金額5千ウォンあたり30分の無料駐車利用券がもらえる。

1953年に形成された去毛洞のトイル市場は、長い歴史を誇る伝統市場である。毎月3と8の付く日に市が立つため、三・八の市とも呼ばれる。小豆、豆、粟、モロコシなどの各種穀物や野菜の苗、農業関連用品などがとりわけ多い場所でもある。33年間同じ場所にあるスサン鍛冶屋など、それこそ昔の情趣がたっぷり感じられる場所。

一時は始興はもちろん、近隣地域にも知られるほど大きな市場だったが、時代の変化に取り残されて廃れかけていたトイル市場は最近、新しい変化を試みた。トイル市場の歴史を探して看板を新しく整備する一方、市場の掃除や慢性的な問題だった駐車管理にも積極的に乗り出した。

盛んな活気と人情、儉約で新年を迎えたいとき、私たちは伝統市場に行く。



春はツツジ群落地、秋は栗農園

漢南正脈コースと並んで行くこのトイギルコースは、桂寿洞の乾支井(コンジムル)と内洞(안골)をつなぐ峠を過ぎても、依然として平坦な登山路となっている。艶かしいピンク色のトンネルで春の訪れを歓迎するツツジ群落地を過ぎれば、向かい側の山すその斜面に作られた栗農園が見える。農園の柵沿いに峠を越えればヤンジ山につながるトイギルコースが続いているが、ここで方向を変えて向かい側の柵沿いに山を登るコースを選んだ。

柵沿いに行くこの道は、漢南正脈を歩く人の中であえて山道にこだわる山岳人の回り道で、従来は果林洞住民自治センターから出発するトイギルコースと出会う道でもある。

その三叉路に大きなコオノオレカンバが立っている。二、三人は軽く座れるくらいのイスのような形をした枝があり、しばし足を止めた。ひときわヌギの多い道が続く。

樹齢500年になるイブキの威容

トイギルコース最大の難コースである桂寿トンネルの上、ゼイゼイ息切れする急斜面を上り下りしてやっと向かい側の山に行ける。もともとは一つの山だったここも、道路に場所を譲って腰が折られ、離れ離れになってしまった。冬の風と雪の中でも色鮮やかなノイバラの実が群落をなす道を過ぎれば、静かな林道が現れる。山の中腹を回って下りれば桂寿洞内洞に木が一本高くそ

びえている。500年の樹齢を誇るイブキ。武骨に伸びた枝は壮健な男性美を思わせる。イブキの樹形を四方からよく見るのも、この道のまた別の楽しみ方である。

元来た道を引き返して山腹を回り切れば、ついに出発点の果林貯水池に戻る。2つの道を適度につないで歩き、出発点まで戻るのにかかった時間は約3時間。



コ・チャンギョン長谷小学校教頭

ヘリカメラに収められた始興浜溝 「美しさの極致」

「浜溝がこれほど美しいとは思いませんでした」

長谷小学校の教頭に赴任して満4ヶ月。コ・チャンギョン教頭がヘリカメラで撮った浜溝の映像を見た人々は口々にこう漏らした。あまりにも近くにあり、いつでも行けるためだろうか。数年間児童を引率して浜溝(ケッソル)生態公園に行ってきた経験のある教師たちの反応はさらに熱かった。

「先生方が浜溝の話をあまりにもたくさんするので、いったいどんなところが興味が湧きました。自分の目で確かめてみると、自慢するだけのことはありましたね」

空を自由に飛び回り、上空からの自然景観を見せてくれるヘリカメラに収められた浜溝は、それこそ美しさと生命の宝庫だった。教頭が小型無人ヘリコプターにカメラを装着してリモコン操縦する撮影機器、ヘリカメラを学ぼうになったのには、格別の理由がある。

「長い間星を観察してきました。幼い時から憧れていた星を、教え子たちにも見せてあげたい気持ちから始めました」

平教師時代、学校で行う科学体験活動に満足できず「しっかり勉強して子どもたちに伝えねば」という思いから、専門的な科学知識を学んだ。天体望遠鏡のような機器で星を観測し、その美しさを映像に収めているうちに、多数の公募展で入賞する榮譽にも与った。

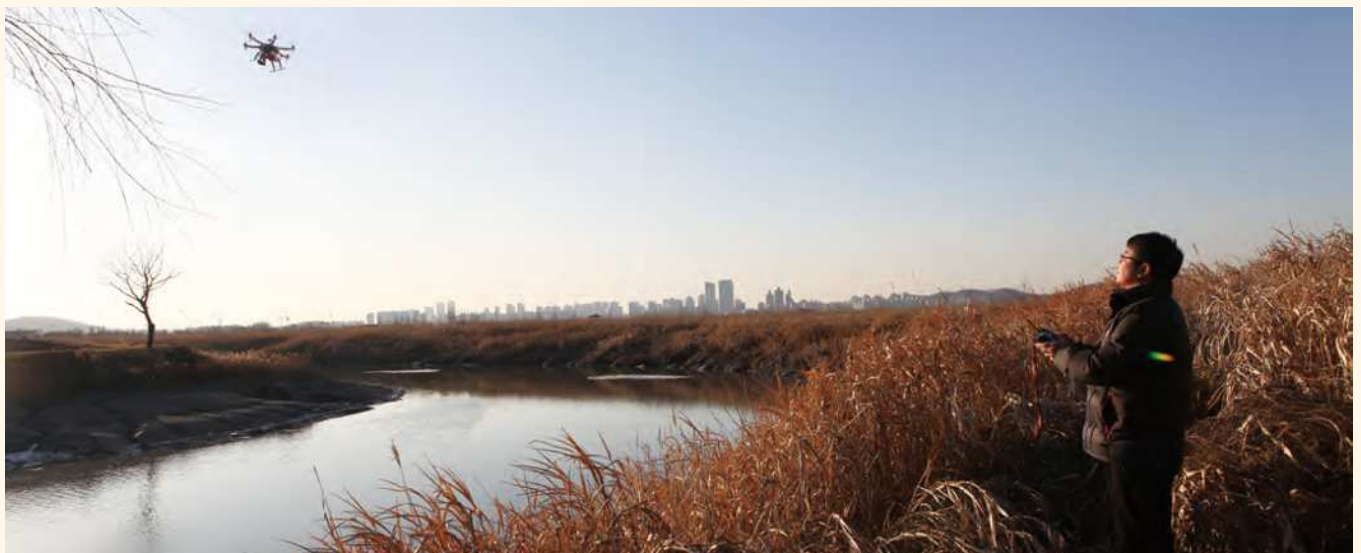
「高性能の望遠鏡で星を観測するのもいいですが、実のところ肉眼で星を眺められるのが一番いいですよ」



ますます世知辛くなる世の中で、子どもたちが一度でも星を眺めた経験は生きていく上で大きな刺激となり、元気に育つのに役立つとコ・チャンギョン教頭は信じている。星からさらに発展した探究心は、ヘリカメラによって視野の拡大を図り、発見する喜びをもたらした。

今後は浜溝の春、夏、秋、冬だけでなく始興の美しい名所、ヌムネギルなどの映像をヘリカメラで撮影し、教科学習に活用する計画である。

「定年退職後は静かな山里に私設観測所を作っておき、大人になった教え子たちを迎えるのが夢です」



長谷洞・月串洞住民センター開所

さる3月1日、始興市で2つの洞住民センターが新たに開所する慶事があった。月串洞の場合、これまで住民サービスを提供する民願中継所はあったが、今回は洞住民センターに格上げして運営されるため、住民自治センター運営に大きな発展があるとみられる。長谷洞の場合、以前は長峴洞にある蓮城洞住民センターで業務を兼任していたため、証明書類を発行してもらいに行ったり、住民センターのプログラムに参加したりするのに不便があった。しかし、今回の長谷洞住民センター設置によって生活がずっと便利になると予想される。長谷洞住民センターは鷹谷中学校の前に臨時庁舎が設けられ、9名の職員が配置されて社会福祉および諸証明発行などのきめ細やかな行政サービスを提供するとともに、様々な住民自治プログラムが運営されることとなり、文化的サービスも期待できるようになる。



 議政活動

「タバコ会社」に損害賠償請求決議
**「癌などの病気引き起こした
社会的責任果たすべき」**

始興市議会はさる1月、「始興市民の喫煙被害回復のために訴訟を促す決議案」を採択した。議長および全議員の採択した同決議案は、喫煙によって市民の健康を脅かすタバコ会社が原因提供者として責任を果たすべきという内容が盛り込まれている。以下は決議案の全文である。

「始興市民の喫煙被害回復のために訴訟を促す決議案」

国民健康保険公団と専門家グループは昨年8月、ビッグデータを活用して130万人の国民を19年間追跡した結果を発表した。男性の場合は喉頭癌で79%、肺癌で71%、食道癌で63%の影響があるなど、喫煙と癌疾患などの間に具体的な因果関係があることが示された。このため、公団は2011年に1兆7千億ウォンの診療費用を追加で支払った。公団は最近、保険財政の管理責任者としてタバコ会社を相手取り損害賠償請求訴訟を提起する意思を公式に示した。

消費者はタバコ一箱当たり354ウォンの健康増進税を負担するが、「タバコ会社」は年7千億ウォンの純利益を上げていながら、いかなる経済的・社会的責任も負わないでいる。喫煙がもとで病気になり、生命まで失う患者のことを考えれば、「タバコ会社」は最小限の企業倫理までないがしろにしていると思わざるを得ない。米国では州政府が訴訟の準備をしたところ、タバコ会社は米史上最大規模の260兆ウォンに及ぶ金額を差し出し、カナダでは根拠となる統計学的資料だけでも喫煙と病気発生の因果関係を立証したと認める法律を準備し、タバコ会社を相手に訴訟を進めている。また、世界各国は喫煙の弊害を最小化するために各種法的規制を設けている。

憲法第36条第3項には「すべての国民は保健について国の保護を受ける」と明示されている。韓国において喫煙は国民の保健を阻害する最大の敵であり、医療給付費用として毎年200億ウォン以上支出する始興市が「タバコ会社」に責任を問うのは、始興市民の保健のための義務であることを闡明する。そこで、我々は次のように決議するものである。

- 一つ、始興市民の保健と財政保護のため、「タバコ会社」に損害賠償請求訴訟を提起することを決議する！
- 一つ、癌などの病気の原因提供者である「タバコ会社」に社会的責任を負わせるため、あらゆる手段を講じることを決議する！
- 一つ、タバコ会社に対して実効性ある責任を問うため、国民健康保険公団と積極的に協力することを決議する！

- 2014年1月 始興市議会議長および議員一同

議政活動

「お金のかからない選挙文化の定着」誓う

全市議員公明選挙実践誓約決議案採択

始興市議会が近々予定されている2014年地方選挙で公明選挙を行うという決議を固めた。市議会は2014年地方選挙が迫っていることを受け、始興市議会全議員が公正な選挙のため、慶弔金および賛助金品を提供しないことにする必要があるという認識の下、第208回始興市議会第2回定例会で市議員12名全員が出席する中、「始興市議会議員公明選挙実践誓約決議案」を採択した。

市議会は公明選挙を誓う決議案によってお金のかからない選挙文化が定着できるように積極的に努力し、選挙区民に対する媒酌および慶弔金、賛助金品の提供禁止を徹底的に実践して市民に信頼され、政治発展に寄与する始興市議員像を具現化することを誓った。

これと関連して始興市選挙管理委員会の関係者は「市議会が韓国の政治文化発展に先導的に寄与する形となり、非常に意義深いこと」であるとし、「お金のかかる政治構造の改善に対する政治家の自発的な参加雰囲気づくりに大きな効果があるとみられる」と歓迎の意を示した。



市民参加と分権実現のための住民参加予算制

地方自治、分権、参加の必要性が次第に高まっていることを受け、始興市はその変化の中心にあり、最も直接的に市民とコミュニケーションがとれる制度として「住民参加予算制」を運営している。

地方自治体長が独占的に行使してきた予算編成権限の一部を市民に還元し、住民が予算編成の決定に参加できる機会を保障する住民参加予算制を拡大すべく、始興市では住民参加予算規模を2012年には25億ウォン、2013年には30億ウォン、2014年には35億ウォンへと段階的に拡大運営しており、制度拡大のための住民組織である住民参加予算委員会、住民参加予算研究会などを結成し、住民が提案した事業についての審議や制度発展のための協議により、真の意味での住民参加を実現している。

あわせて、2013年には直接的な住民参加の機会を保障するため、「2013始興市住民参加予算ハンマダン住民投票」を開催して各地域の提案事業について説明を聞き、投票権者個人の考えと選択が反映される投票によって提案事業の評価が行われるようにし、これによって住民参加予算制を広報するとともに、実質的に住民参加が行われるように努力している。

始興市は住民参加予算に対する市民の関心と参加が高まっているだけに、透明かつ公正な参加予算制が早期に定着するように支援を惜しまないと約束し、市民の継続的な関心と参加によって成熟した始興市ならではの住民参加予算制を作っていこうと呼びかけた。

